

令和7年度 ASEAN向けAJEEP Scheme 4 CSMのエネルギー診断演習を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、資源エネルギー庁の委託を受けて、令和7年度のASEANに対する省エネ人材育成事業のAJEEP Scheme 4 CSM* Trial Runの第2弾として令和7年9月30日

（月）に、ASEAN10カ国政府の省エネ政策・制度・エネルギー管理士研修関係者並びにエネルギー管理士志望者を対象に、オンラインのエネルギー診断演習（Energy Audit Practice）を実施しました。

1. 目的：AJEEP Scheme 4の大きな課題の一つであるASEANの地域共通となる標準的なエネルギー管理士認定研修科目（SAEMAS* CSM）の構築は、2022年度からの4カ年計画で推進しており、この3カ年、ECCJはAMS 10カ国のSAEMAS WGと共に検討してきました。最終年度となる今年度は出来上がったCSMの3つの研修を実際に一通りオンラインでTrial Runとして実施し、ASEAN各国のエネルギー管理士研修関係者や政府関係者によりCSM研修テキストや運営法などをECCJが作成したFormatに沿って評価して報告書を提出してもらい、来年1月のWSで確認・討議の上、CSMの最終化を図ると共に、当該制度未整備4カ国を中心にASEAN EMP*を目指すエネルギー管理士志望者にも実際に研修に参加してもらいその面からの評価も行います。
2. 参加者：CSM Trial Run全体としては評価者が37名、研修生が34名、計68名（内3名は両方に参加）が登録。当演習には評価者は11名、研修生は28名が参加しました。ECCJからは3名が参加。
3. 演習概要と結果：
 - (1) CSMのTrial Runの第2弾としてエネルギー診断演習（Energy Audit Practice）を開始するにあたり、関連の講義2件（「診断方法」及び「診断の視点」）と研修生の診断計画を確認をしました。
 - (2) 2件の講義では、「診断方法（Energy Audit Procedure）」はPPTスライドによりECCJの講師がオンラインで生講義をし、「診断の視点（Viewpoints of Energy Audit）」はPPTスライド各頁の下部欄外に記載するNote記述を音声化してビデオにしたものをオンラインで放映したが、問題なく視聴出来ることを確認しました。これは将来、ASEAN各国で利用する際に講師なしでもいつでも自習出来る教材として提供するためのものです。また参加者にはECCJで作成した工場とビルでの「省エネガイドブック」を参考用に提供しました。
 - (3) 研修生でエネルギー診断計画を既に立てていた者はこの数日後の確認も含めて28名中、20名あり、内、工場が5名、ビルが15名でした。
 - (4) 診断先を見つけるのが難しい場合には模擬診断事例（Virtual Energy Audit Case）を提供するとして、この演習の日以降1週間程度の検討猶予を与えました。8名より要望があり、工場かビルのいずれかの事例を10月10日に対象者に提供しました。
 - (5) 10月早々より研修生にはエネルギー診断を開始し11月末には診断報告書を提出、12月には報告内容を各人よりプレゼンしていただき、それらをECCJにて評価します。その上で、他の2つの研修の試験結果も併せて総合評価をし、ASEAN EMPへの可否を判定します。
 - (6) エネルギー診断演習での評価者は、自ら診断をすることはありませんが、希望者には研修生のオンライン・プレゼンは視聴して構わないとしました。

*CSM：Common Standard Module: 共通標準研修科目

*SAEMAS: Sustainable ASEAN Energy Management Accreditation Scheme

*EMP: Energy Management Professional ; ASEAN地域に新たに設定するエネルギー管理プロ資格